

令和8年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 やや多
水稲共通	ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	多 並 並 並 並 並	多 並 並 並 並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	少 並 並	少 やや多 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 並 並 少	並 並 並 少
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや少 やや多 やや多	並 やや多 やや多
果樹共通	カメムシ類	やや多	やや多
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや多 少 並 やや多 やや多 やや少 やや少	やや多 少 並 やや多 やや多 やや少 やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（24筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.7%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 0.2%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる）。好適条件等の詳細は病害虫防除所ホームページを参照。

月日	鰐浦	巖原	芦辺	平戸	松浦	佐世保	西海	有川	長崎	島原	福江	口之津	脇岬
6/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/2	-	-	-	-	-	●	●	●	●	-	-	●	-
6/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/5	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/9	-	●	●	4	●	●	●	●	●	-	●	●	●
6/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
6/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

発生指標	?:判定不能	一:好適条件なし	1:準好適条件1	2:準好適条件2	3:準好適条件3	4:準好適条件4	●:好適条件
------	--------	----------	----------	----------	----------	----------	--------

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（24筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発病株率0.3%）。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

本病は上位葉が発病すると収量低下などの被害が生じるので、特に生育が旺盛で過繁茂となっている圃場など上位葉への進展が懸念される圃場では薬剤散布を徹底する。薬剤散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。

水稻共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容：発生程度 ヒメトビウンカ 多
縞葉枯病 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（24筆）の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は1.1頭（0.2頭）、発生圃場率は70.8%（49.6%）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は1.6頭（0.6頭）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

ウ 本年5月の小麦圃場及びイネ科雑草地（12地点、1地点あたり概ね5圃場）においてヒメトビウンカの生息量調査を行った結果、捕虫網による20回すくいとり当たり頭数は13.0頭（平年 6.4頭）と平年より多く（凶）、若・中齢幼虫主体であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ウンカ類に効果の高い箱施薬の施用を徹底する。

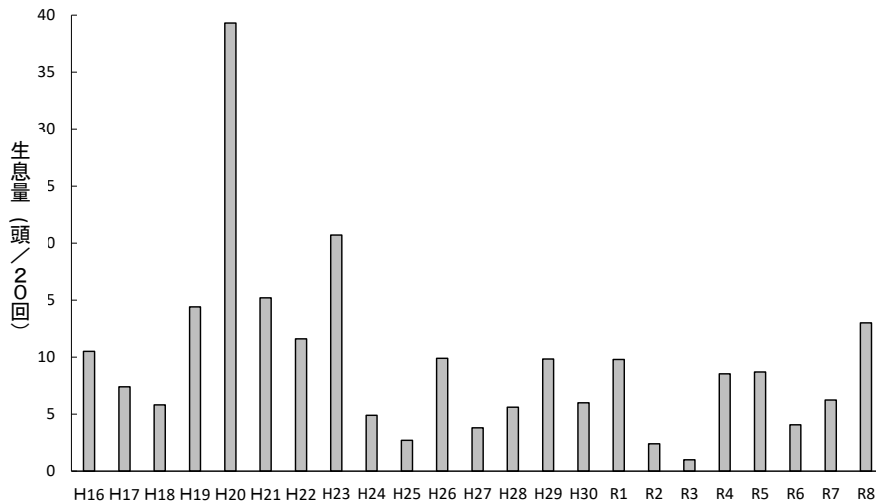


図 小麥圃場及びイネ科雑草地におけるヒメビウンカ(第1世代)の生息量の推移

2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(24筆)の結果、早期水稲における株当たり虫数は0.2頭(0.1頭)、発生圃場率は33.3%(34.1%)であった。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における株当たり虫数は3.0頭(1.9頭)であった。

3. セジロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月21日に黄色粘着板(諫早市)において初誘殺を確認した。

イ 6月前期の巡回調査(24筆)の結果、早期水稲における株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は25.0%(26.1%)であった。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における株当たり虫数は1.1頭(0.6頭)であった。

4. トビイロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月7日に黄色粘着板及びスマート害虫モニタリングシステム(諫早市)において初誘殺を確認し、前年の初誘殺日(6月18日)よりも早い確認であった。

イ 6月前期の巡回調査(24筆)の結果、早期水稲における発生を認めなかった(過去10か年平均 株当たり虫数0.0頭、発生圃場率0.5%)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ウンカ類に効果の高い箱施薬の施用を徹底する。

イ 今後の飛来状況に注意する(病虫害防除所ホームページ参照)。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月5日にフェロモントラップ(諫早市)において初誘殺を確認した。

イ 6月前期の巡回調査(24筆)の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった(食害株率0.0%、発生圃場率1.3%)。成虫の発生も認めなかった

(10㎡当たり成虫数0.0頭)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった(0.1%)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病虫害防除所ホームページ参照)。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容: 発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(29筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.3%、発生圃場率4.2%)。

2. 炭疽病

(1) 予報内容: 発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(29筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 診断業務では、6月5日に本病の発生を確認している。

ウ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、育苗床及び周囲の除草を徹底するなど、環境整備に努める。また、雨よけ育苗施設を有する圃場は積極的に被覆を行い、降雨等による病原菌の跳ね上がりを防止する。

イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗も処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず適切に処分する。

ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤をローテーション散布するが、降雨が予想される場合は、降雨前の防除に努める。

3. ハダニ類

(1) 予報内容: 発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(29筆)の結果、寄生株率は7.7%(9.0%)、発生圃場率は44.8%(44.6%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

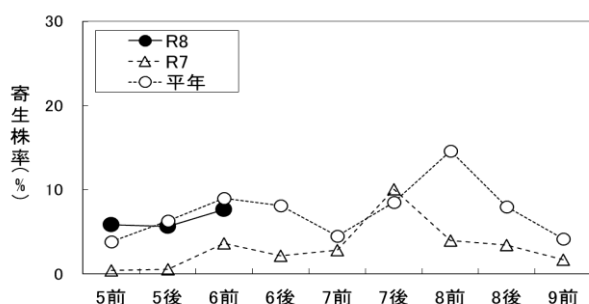


図 ハダニ類 寄生株率の推移(育苗圃)

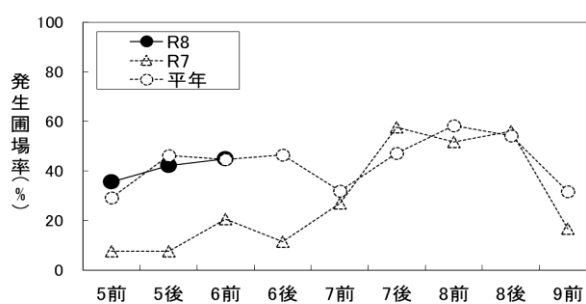


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(育苗圃)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 土着天敵の活動が活発になる時期であり、天敵への影響が大きい薬剤の使用は避け、気門封鎖剤等の天敵に影響の少ない薬剤を積極的に使用する。なお、気門封鎖剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。
- イ 薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和8年長崎県病害虫防除基準P186～187の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- エ 親株切り離し後は、苗の間隔を開け薬剤防除を徹底する。

アスパラガス

1. アザミウマ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月前期の巡回調査（10筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所）は4.8頭（15.1頭）、発生圃場率は50.0%（65.3%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

かんきつ

1. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - 6月前期の巡回調査（35筆）の結果、発病葉率は0.2%（0.3%）、葉での発生圃場率は11.4%（17.4%）、発病果率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は2.9%（1.0%）であった。

2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - 6月前期の巡回調査（35筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病果率0.3%、発生圃場率0.0%）。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 今後の気象（降雨）の推移に留意し、防除適期を逸しないよう努める。
 - イ 枯れ枝が伝染源となるので、管理作業と併せて剪除する。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月前期の巡回調査（35筆）の結果、寄生葉率は7.0%（4.9%）、発生圃場率は34.3%（31.6%）であり、一部、多発圃場が見られた。
 - イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みである。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和8年長崎県病害虫防除基準P324～326（みかん）およびP330～332（かんきつ）の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（35筆）の結果、果頂部、果梗部ともに被害の発生を認めなかった（果梗部：被害果率0.3%、発生圃場率0.0%、果頂部：過去10か年平均 被害果率0.3%、発生圃場率0.0%）。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、少なく推移している（図）。

ウ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みである。

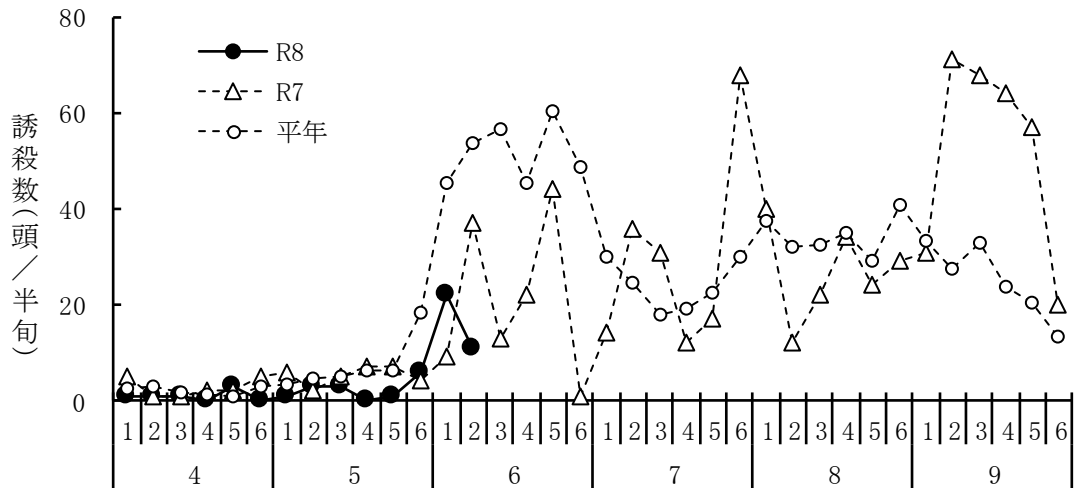


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況
(諫早市小船越町：黄色粘着トラップ) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は、前年より早い（表）。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（令和8年6月15日時点）

地点名/標高 (位置の目安)		第3世代	第4世代
		今年	6/18
長崎/26.9m (气象台)	前年	6/26	7/13
	今年	6/19	7/10
佐世保/3.9m (佐世保港付近)	前年	6/28	7/14
	今年	6/18	7/8
島原/14m (島原外港IC付近)	前年	6/25	7/11
	今年	6/21	7/11
大村/3m (長崎空港)	前年	6/28	7/15
	今年	7/2	7/22
平戸/57.8m (岩の上町)	前年	7/7	7/25
	今年	6/21	7/11
口之津/13m (口之津港付近)	前年	6/29	7/16

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には令和8年6月14日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。

また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が**0.1頭**に達する前に防除を行う。

び わ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率は0.1%（0.1%）、発生圃場率は10.0%（11.4%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア せん定後にカスガマイシン・銅水和剤を散布し、感染を防止する。

イ ナシヒメシンクイの食入痕からも感染するので、本虫の防除を徹底する。

2. 灰斑病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率は7.4%（4.2%）、発生圃場率は60.0%（71.4%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病は病斑上に形成された分生孢子が雨水によって飛散することにより感染が拡大するため、夏葉の伸長期に防除を行う。

イ 感染予防のため、強風を伴う雨が予想される場合には、カスガマイシン・銅水和剤の散布を行う。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(過去10年平均寄生枝葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年より多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

本虫の侵入口はがんしゅ病の感染経路となり、また、がんしゅ病の病斑部に本虫が食入すると感染が助長されるため、がんしゅ病に対する防除も併せて行う。

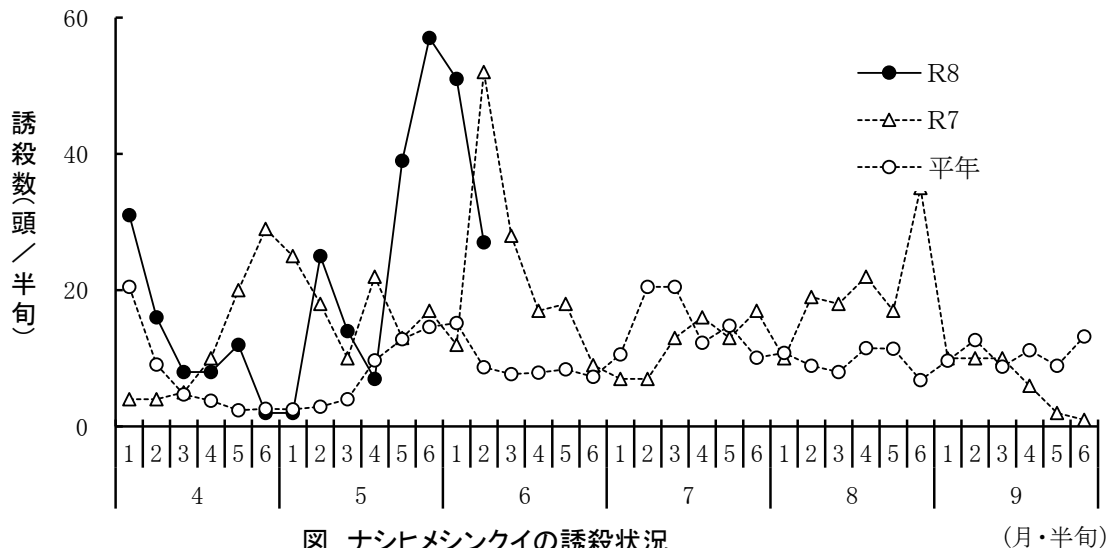


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア かんきつの6月前期の巡回調査(35筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.7%)。びわの6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ フェロモントラップ(諫早市、西海市、大村市)及び予察灯(諫早市)の誘殺量は、5月下旬頃から減少しているが、6月上旬現在、平年及び前期発生型であった令和6年に比べ並~多い状況である(図)。

ウ 6月12日、餌植物であるヒノキきゅう果上においてチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの寄生を確認している。

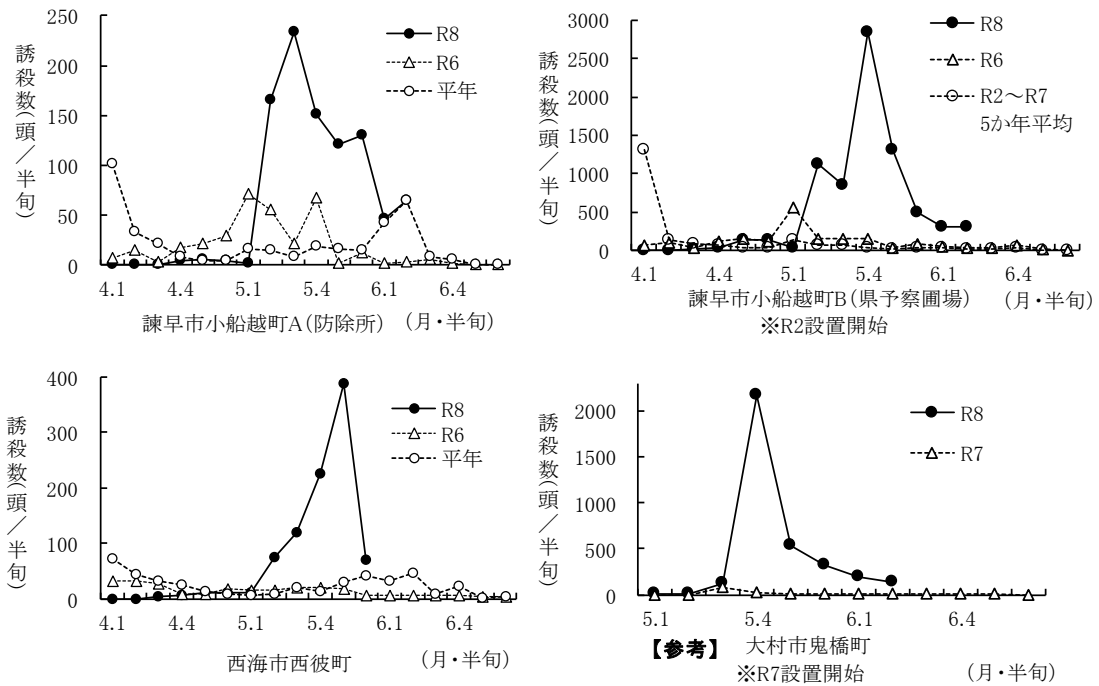


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(フェロモントラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

飛来量や飛来時期は園地により異なることから、ヒノキなどの防風樹周辺、山間部や山沿い等の園地は飛来に注意し、特に、ハウスみかんやなし、もも等では飛来を認めたら早急に防除を行う。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は7.8枚(2.4枚)、発生圃場率は50.0%(50.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 三番茶の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。

イ 多発状態の続く園では、せん枝により伝染源を除去する。

ウ 品種により本病への抵抗性に差があるため、「やぶきた」、「おくみどり」など本病に弱い品種は特に注意する。

エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統(令和8年長崎県病害虫防除基準P354の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.2頭(14.5頭)、発生圃場率は83.3%(81.8%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 6月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚（0.2枚）、発生圃場率は8.3%（11.4%）であった。
- イ フェロモントラップ（東彼杵町）調査の結果、5月の誘殺量は平年よりもやや少なかった（図）。

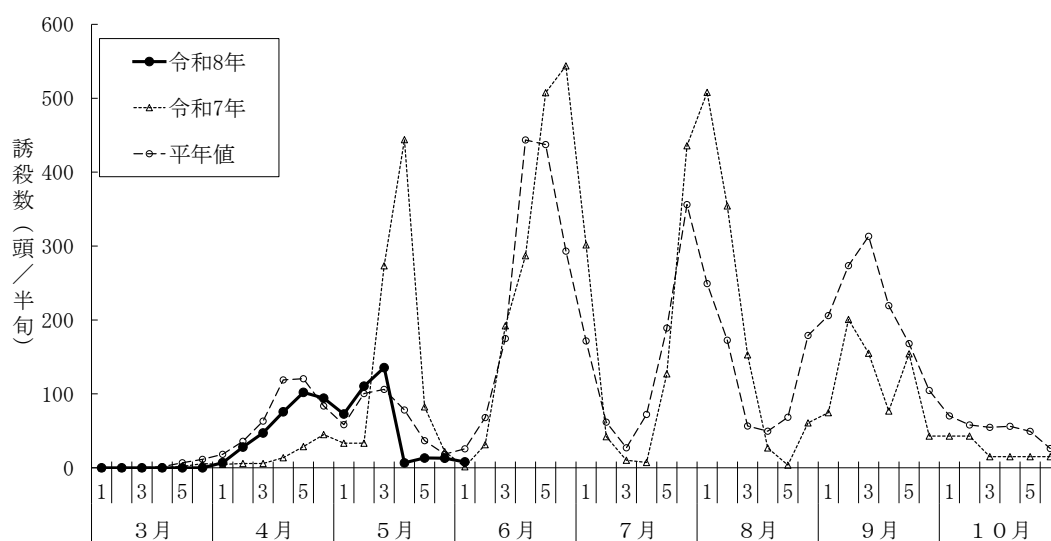


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵町：フェロモントラップ）
※茶業研究室調べ

4. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 6月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.6枚（0.3枚）、発生圃場率は25.0%（12.5%）であった。
- イ フェロモントラップ（東彼杵町）による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している（図）。

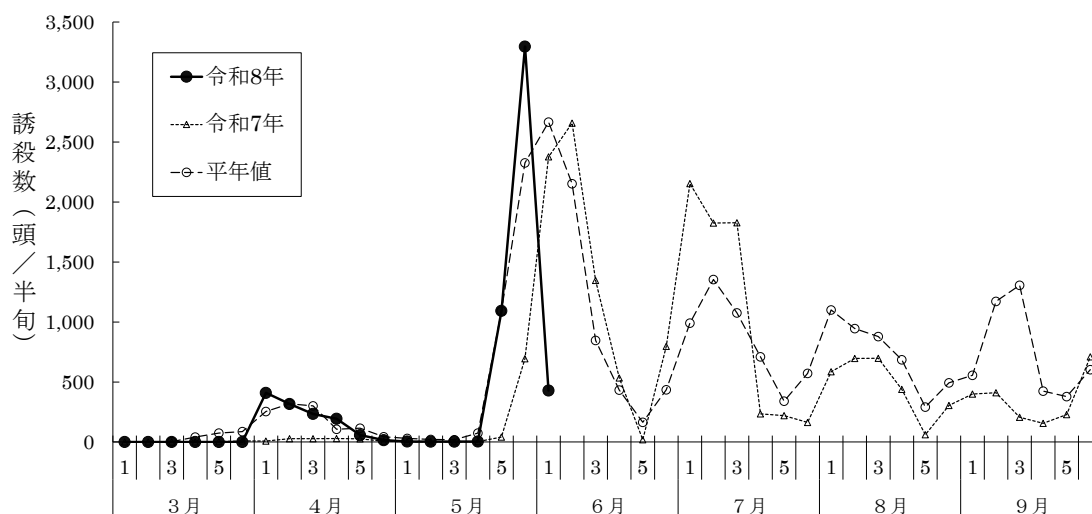


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵町：フェロモントラップ）
※茶業研究室調べ

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 防除適期の目安は、脱皮阻害剤（IGR剤）は発蛾最盛期の頃、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7～10日後である。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和8年長崎県病虫害防除基準P355～356の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は7.8%（3.5%）、発生圃場率は58.3%（34.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも葉液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和8年長崎県病害虫防除基準 P355～356の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は3.4頭（6.9頭）、発生圃場率は66.7%（83.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 三番茶の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。

イ 中切り等の更新園、摘採中止園、幼木園などでは、茶芽生育期間が長いことため被害が継続し、樹勢へ及ぼす影響が大きいことから、特に注意する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和8年長崎県病害虫防除基準 P355～356の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は2.1%（4.4%）、発生圃場率は25.0%（36.0%）であった。

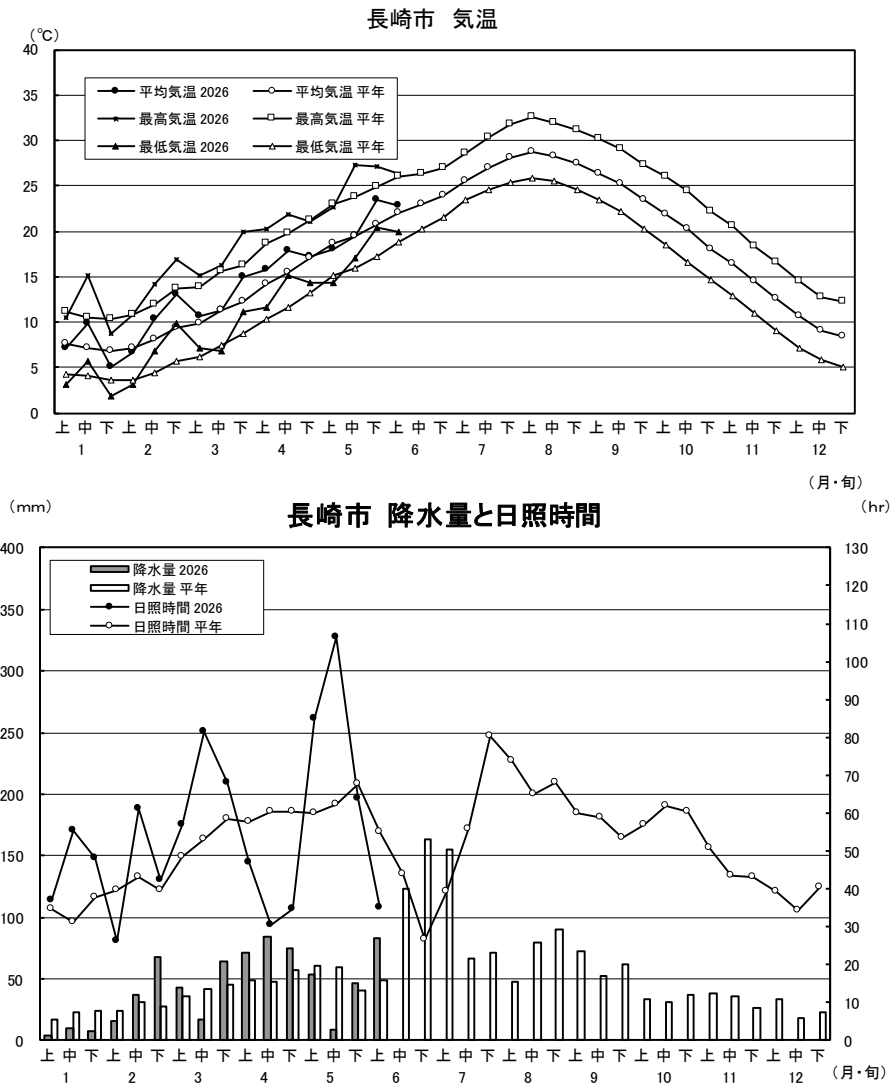
【参考】

(令和8年6月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和8年の気象経過(長崎地方気象台)



○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL: 0957-26-0027

